



2025年2月18日

工事進捗状況／岩手県宮古市の「夜間連系太陽光発電所」

日本国土開発株式会社（東京都港区 代表取締役社長 林伊佐雄）と宮古市が、岩手県宮古市で建設中の「夜間連系太陽光発電所」について、工事進捗をお知らせします。

同発電所は、2024年11月より工事に着手しており、2025年1月現在で太陽光パネルおよびPCS（Power Conditioning System）の設置が完了しています。今後は蓄電設備や変電設備の設置を行い、2025年12月の稼働開始に向けて工事を進めていきます。

宮古市における取り組みや現場の様子をより多くの方々に知っていただくため、当社のホームページに随時情報を掲載してまいります。ぜひご覧いただき、宮古市と当社グループの脱炭素に向けた取り組みをご理解いただければと考えています。



太陽光パネルの設置が完了した夜間連系太陽光発電所（2025年1月21日撮影）

夜間連系太陽光発電所の概要

事業主	田老発電合同会社
出資者	日本国土開発(株)、宮古市
事業地	岩手県宮古市田老向山内
事業開始	2025年12月（予定）
パネル容量	2,969 kW
蓄電池容量	7,987 kWh
一般世帯換算	623世帯

<主要機器・機材について>

太陽光パネル	シャープ(株)製
PCS	富士電機(株)製
杭・架台	(株)カケフ住建製
蓄電池	TDK(株)製

工事進捗動画のご案内

工事進捗については、空撮動画でもご確認いただけます。是非ご覧ください。

▶ [工事進捗動画](#)

◆宮古市と当社の取り組み

宮古市は、「宮古市2050年ゼロカーボンシティ」を表明し、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入促進により2050年までにCO₂の排出を実質ゼロにする取り組みを進めており、2022年11月に「脱炭素先行地域」に選定されています。

当社は、この「宮古市脱炭素先行地域づくり事業」の一環として、当社と宮古市が出資した「田老発電合同会社」を事業主体として、「夜間連系太陽光発電所」事業を推進しております。「夜間連系太陽光発電所」の建設は、2015年に宮古市内で運転を開始した田老太陽光発電所の隣に新たに太陽光発電所と蓄電池を設置するものです。これにより、系統を有効活用でき、さらに夜間も電力を供給できるようになります。また、市民参加型の事業とするため、市民ファンドも計画しております。

◆夜間連系太陽光発電所のイメージ

夜間連系太陽光発電所は、昼間に発電した電気を蓄電設備にて充電し、夕方から夜間にかけて放電を行うことによって、昼夜を問わず安定的な電力供給を目指すものです。



※発電量の少ない朝方などや蓄電池が満充電された際は、直接系統に電力を供給します。

この件に関するお問い合わせ先

日本国土開発株式会社 サステナビリティ経営本部戦略部(広報担当) 電話: 050-1735-9468